

小鹿野町学校施設長寿命化計画

令和3年（2021年）2月

小鹿野町教育委員会

目次

(1) 学校施設の長寿命化計画の背景と目的

①背景.....	1
②目的.....	1
③計画期間.....	2
④対象施設.....	2

(2) 学校施設の目指すべき姿..... 3

(3) 学校施設の実態

①学校施設の運営状況・活用状況の実態.....	5
1) 対象施設一覧.....	5
2) 児童生徒数の推移.....	6
3) 地域別の人口と学校の配置状況.....	6
4) 施設関連経費の推移.....	9
5) 学校施設の保有状況.....	10
6) 今後の維持・更新コスト（従来型）.....	11
②学校施設の老朽化状況の実態.....	12
1) 構造躯体の健全性の評価及び 構造躯体以外の劣化状況等の評価.....	12
2) 今後の維持・更新コスト（長寿命型）.....	13

(4) 学校施設整備の基本的な方針等

①学校施設の規模・配置計画等の方針.....	14
1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針.....	14
2) 学校施設の規模・配置計画等の方針.....	15
②改修等の基本的な方針.....	15
1) 長寿命化の方針.....	15
2) 目標耐用年数、改修時期の設定.....	16

（５）基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

- ①改修等の整備水準 17
- ②維持管理の項目・手法等 18

（６）長寿命化の実施計画

- ①改修等の優先順位付けと実施計画 19
- ②長寿命化のコスト見通し、長寿命化の効果 20

（７）長寿命化計画の継続的運用方針

- ①情報基盤の整備と活用..... 21
- ②推進体制等の整備 21
- ③フォローアップ 21

（１）学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

①背景

小鹿野町の多くの公共施設が、高度経済成長期に人口の増加などに整備されたもので、建設から 40 年以上が経過し改築や改修の時期を迎える中、そのすべてを現状のまま維持・管理していくことは、町にとって大きな財政負担となってしまう。

そのため、適切なコスト管理による計画的な整備と将来需要を見通した最適化に向けて、小鹿野町公共施設管理計画（以下、「総合管理計画」という。）が平成 28 年 12 月に策定されました。

この総合管理計画に基づき、人口動態や町の財政状況に見合った施設総量に抑制し、持続可能な調整の実現と継続的な行政サービスの提供を目指していくことが求められています。教育委員会では、総合管理計画を上位計画に平成 29 年 8 月 小鹿野町教育財産管理計画（以下、「教育財産管理計画」という。）を策定し、新しいニーズに対応した教育施設を再構築することで、安心・安全で魅力的な公共施設として次世代に引き継ぐものとしてきました。

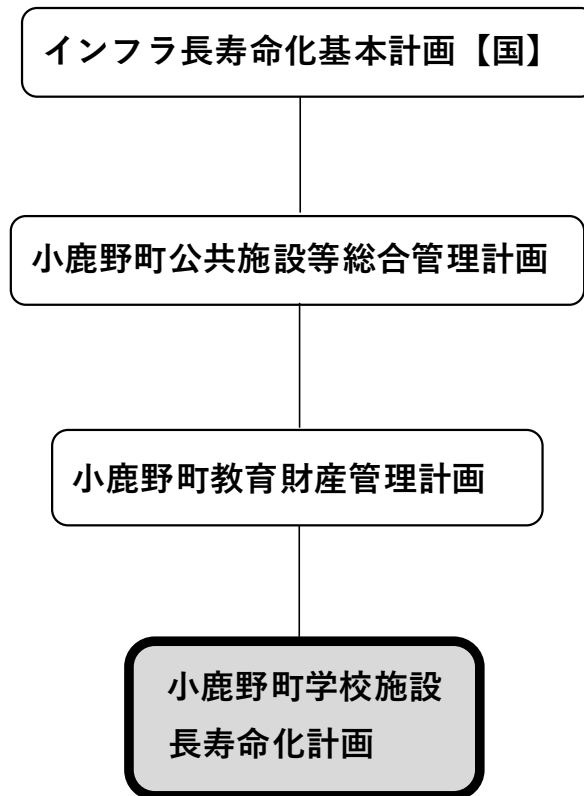
そして今回、総合管理計画及び教育財産管理計画を推進していくため、学校施設において、個別施設毎の整備内容や時期、費用等の具体的な対応方針を定めた、小鹿野町学校施設長寿命化計画（以下、「本計画」という。）を策定しました。

②目的

本計画は、上記の背景を踏まえて学校施設を総合的観点で捉え、長寿命化できるものは長寿命化し、適正に改修・建替えするとともに、これに要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として策定します。

(参考) 計画の位置づけ

小鹿野町公共施設等総合管理計画及び小鹿野町教育財産管理計画を上位計画とし、教育施設を対象に具体的な管理計画を定めます。



③ 計画期間

2021 年度から 2060 年度までの 40 年間を整備保全計画とします。また、実施実行については、施設の老朽化状況等の実態を継続的に把握し、PDCA サイクルによる実行システムを構築します。また、本計画については 5 年ごとに見直します。

④対象施設

本計画における対象施設を以下に示します。

- | | |
|----------|---------------------------|
| 【小学校】 | 小鹿野小学校、長若小学校、三田川小学校、両神小学校 |
| 【中学校】 | 小鹿野中学校 |
| 【認定こども園】 | おがのこども園 |
| 【給食センター】 | 小鹿野町学校給食センター |

(2) 学校施設の目指すべき姿

学校施設の目指すべき姿は、第二次小鹿野町教育振興基本計画において示された教育方針を前提としつつ、今後の学校施設の取り組みにおいて実現すべき目標像となります。

文部科学省の諮問会議等において示された「安全性」、「快適性」、「学習活動の適応性」、「環境への適応性」、「地域の拠点化」等の観点も踏まえ、以下の項目を目標像の基本とし、適切な改築や改修等の施設整備を行います。

1 安全性

○災害対策

- ・地震・洪水に強い学校施設
- ・防災機能を備えた学校施設

○防犯、事故対策

- ・安全で安心な学校施設

2 快適性

○快適な学習環境

- ・学習能率の向上に資する快適な学習環境
- ・児童生徒の学校への愛着や思い出につながり、また、地域の人々が誇りや愛着をもつことができる学校
- ・バリアフリーに配慮した環境

○教職員に配慮した環境

- ・教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要な I C T 環境

3 学習環境への適応性

○主体性を養う空間の充実

- ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
- ・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、主体的な行動を促す空間
- ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間
- ・社会性を身に付けるための空間

○効果的・効率的な施設整備

- ・習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行う空間
- ・調べ学習や習熟度別学習、ティームティーチングなどの多様な学習集団、学習形態を展開するための空間
- ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための ICT 環境
- ・各教科等の授業を充実させるための環境

- 言語活動の充実
 - ・各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間
 - ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
 - ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための ICT 環境
- 理数教育の充実
 - ・充実した観察、実験を行うための環境
- 運動環境の充実
 - ・充実した運動ができる環境
- 伝統や文化に関する教育の充実
 - ・伝統や文化に関する教育を行うための環境
- 外国語教育の充実
 - ・外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間
- 学校図書館の活用
 - ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
 - ・地域の生涯学習の拠点となる学校施設ほか
- キャリア教育、進路指導の充実
 - ・充実したキャリア教育、進路指導を行うための環境
- 食育の充実
 - ・食育のための空間
- 特別支援教育の推進
 - ・バリアフリーに配慮した環境
 - ・自閉症、情緒障害又はADHD等のある児童生徒に配慮した学校施設
- 環境教育の充実
 - ・地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール
- 4 環境への適応性
 - 環境を考慮した学校施設
- 5 地域の拠点化
 - 安全で安心な学校施設
 - バリアフリーに配慮した環境
 - 地域に開かれた学校とするための環境
 - 地域の生涯学習の拠点となる学校施設

(3) 学校施設の実態

①学校施設の運営状況・活用状況等の実態

1) 対象施設一覧

小鹿野町には、小学校4校、中学校1校、認定こども園1園、給食センター1箇所の学校施設が配置されています。延床面積は、小学校全体では14,082 m²、中学校 6,986 m²、認定こども園 1,278 m²、給食センター849 m²となり学校施設全体では 23,195 m²になります。

図表 施設一覧 (令和2年5月1日現在)

名称	住所	延床面積 (㎡)	建築年度	児童生徒数（人）		学級数（学級）	
				通常学級 在籍者数	特別 支援	通常 学級	特別 支援
小学校				490	18	28	5
1 小鹿野小学校	小鹿野町小鹿野 2 6 7 8	5,474	昭和 4 6	297	7	12	2
2 長若小学校	小鹿野町般若 1 1 9 2	2,329	昭和 4 8	58	6	6	0
3 三田川小学校	小鹿野町飯田 2 7 7 0	3,014	昭和 4 9	48	1	4	1
4 両神小学校	小鹿野町両神薄 2 6 6 2	3,265	昭和 4 7	87	4	6	2
中学校				292	12	9	2
1 小鹿野中学校	小鹿野町小鹿野 1 4 6	6,986	昭和 5 3	292	12	9	2
小中学校 計				782	30	37	7
認定こども園				116		6	
1 おがのこども園	小鹿野町小鹿野 2 7 4 3	1,278	昭和 5 6	116		6	
給食センター							
1 小鹿野町学校給食センター	小鹿野町小鹿野 1 9 0 7 - 1	849	平成 2 8				

2) 児童生徒数の推移

小学校の児童数は、令和2年5月1日現在 502 人（33 学級、特別支援学級 5 を含む）です。中学校の生徒数は、令和2年5月1日現在 304 人（11 学級、特別支援学級 2 を含む）です。

【児童生徒数】

(人)

	これまでの推移								将来推計		
	1982	1987	1994	1999	2004	2009	2014	2020	2021	2023	2025
	昭和57	昭和62	平成6	平成11	平成16	平成21	平成26	令和2	令和3	令和5	令和7
小学校 児童数	1563	1433	1252	1067	812	706	626	502	455	373	297
中学校 生徒数	820	770	688	642	505	383	337	304	306	282	240
合計	2383	2203	1940	1709	1317	1089	963	806	761	655	537

【学級数】

(学級)

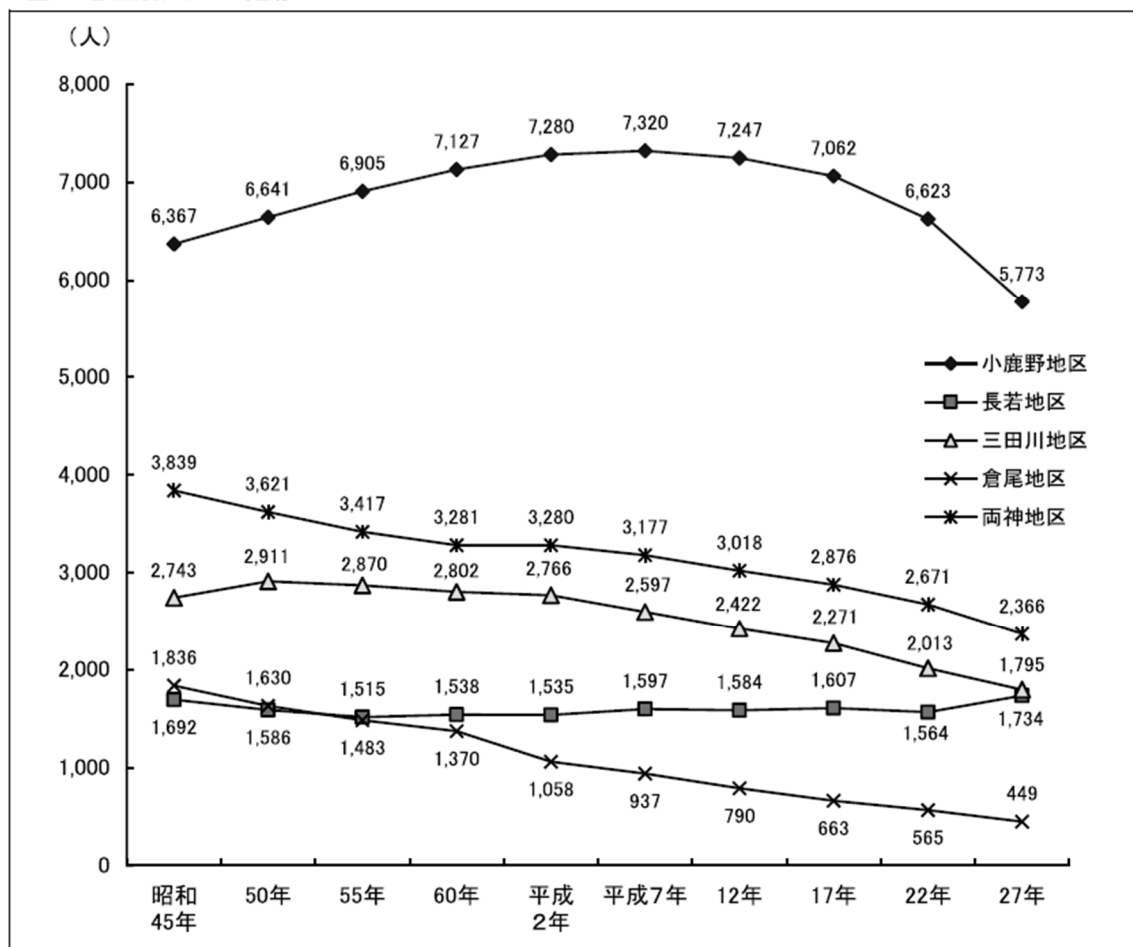
	これまでの推移								将来推計		
	1982	1987	1994	1999	2004	2009	2014	2020	2021	2023	2025
	昭和57	昭和62	平成6	平成11	平成16	平成21	平成26	令和2	令和3	令和5	令和7
小学校 学級数	53	52	51	42	34	34	36	33	30	28	23
中学校 学級数	26	26	26	27	20	19	18	11	11	11	10
合計	79	78	77	69	54	53	54	44	41	39	33

※学級数の将来推計の特別支援学級数は令和2年度と同数で計算

3) 地域別の人口と学校の配置状況

小鹿野町では近年、急激な人口減少が進んでおり、平成28年度からは長若中学校、三田川中学校、両神中学校が小鹿野中学校へと統合し、町内に4校あった中学校が1校となりました。一方で小学校は小鹿野小学校、長若小学校、三田川小学校、両神小学校の4校を現在も配置していますが、小学校の児童数は令和2年度から令和7年度までの今後6年間に於いて、約260人程度減少する見込みです。

図 地区別人口の推移



各小学校児童数の将来推移

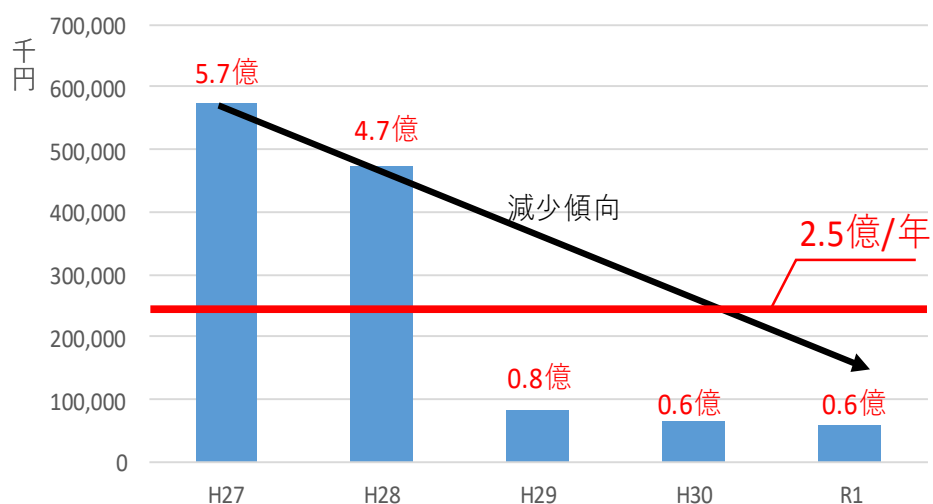
(人)

	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
小鹿野小学校	326	304	271	248	228	199	178
長若小学校	61	58	54	54	49	43	42
三田川小学校	54	49	40	40	36	34	33
両神小学校	98	91	90	73	60	52	44
合計	539	502	455	415	373	328	297

4) 施設関連経費の推移

平成 27 年から令和元年度での 5 年間の学校教育施設の施設関連経費は、総額約 12.4 億円で 5 年間の平均は約 2.5 億円となります。この 5 年間で小鹿野小学校体育館プール改築工事、小鹿野中学校武道場新築工事、小鹿野町学校給食センター新築工事等の施設整備を実施しました。

平成 27 年から令和元年度の施設関連経費の推移



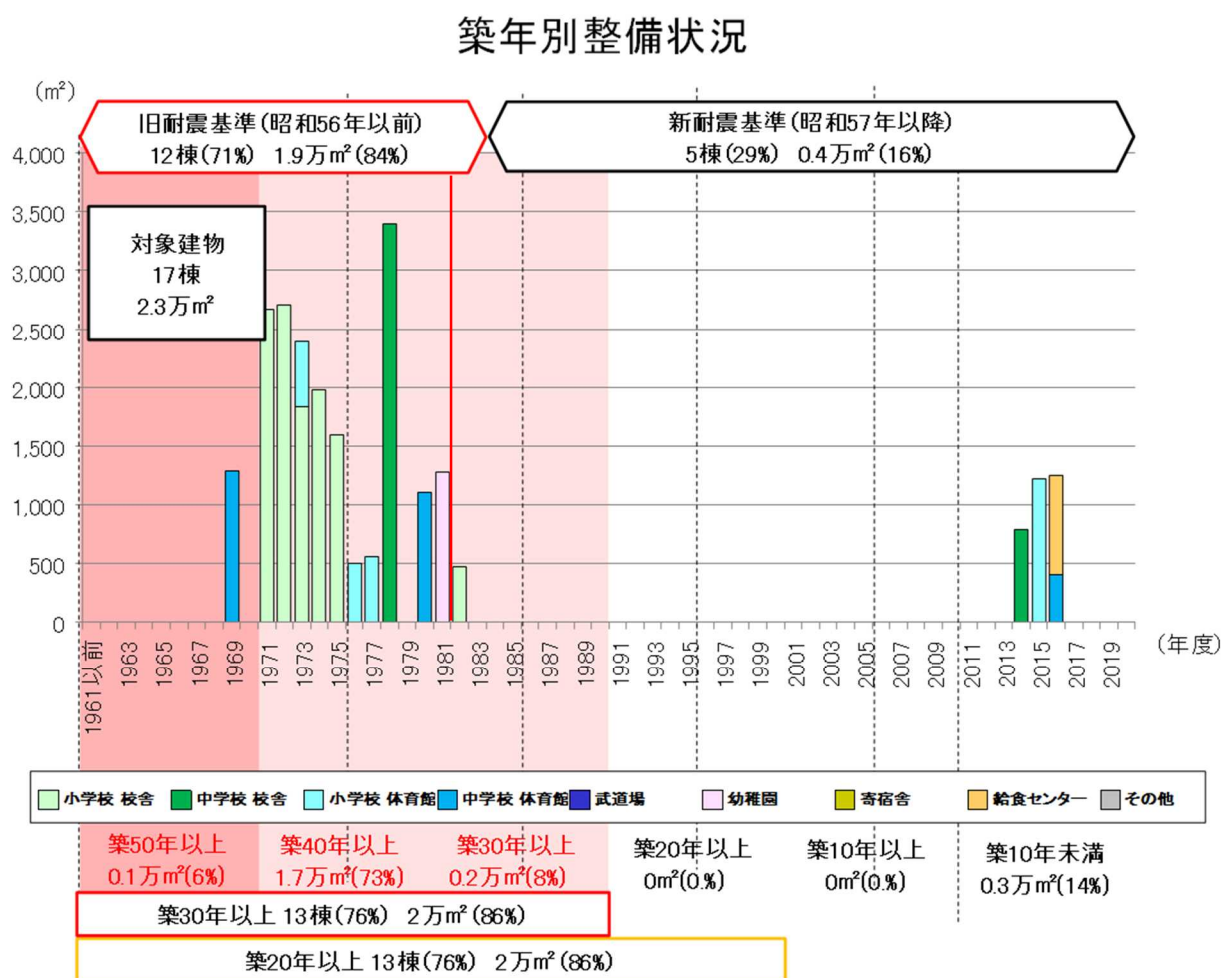
平成 27 年から令和元年度の施設関連経費の推移 (円)

	H27	H28	H29	H30	R1
施設整備費	524,639,180	422,095,440	26,269,018	1,945,464	8,983,794
その他施設整備費	3,626,640	6,912,000	10,396,080	11,664,000	3,467,980
維持修繕費	3,611,419	4,816,985	4,386,524	10,820,026	10,809,275
光熱水費	30,079,102	29,310,402	31,942,504	30,754,523	26,475,626
委託料	9,872,920	8,700,225	8,579,088	9,207,722	8,915,072
合計	571,829,261	471,835,052	81,573,214	64,391,735	58,651,747

5) 学校施設の保有状況

計画対象の学校施設は、築30年以上の建物が2万㎡(86%)と老朽化が進んでいます。各学校施設を建て替えることは不可能といえ、長寿命化による対応の可能性を検討する必要があります。

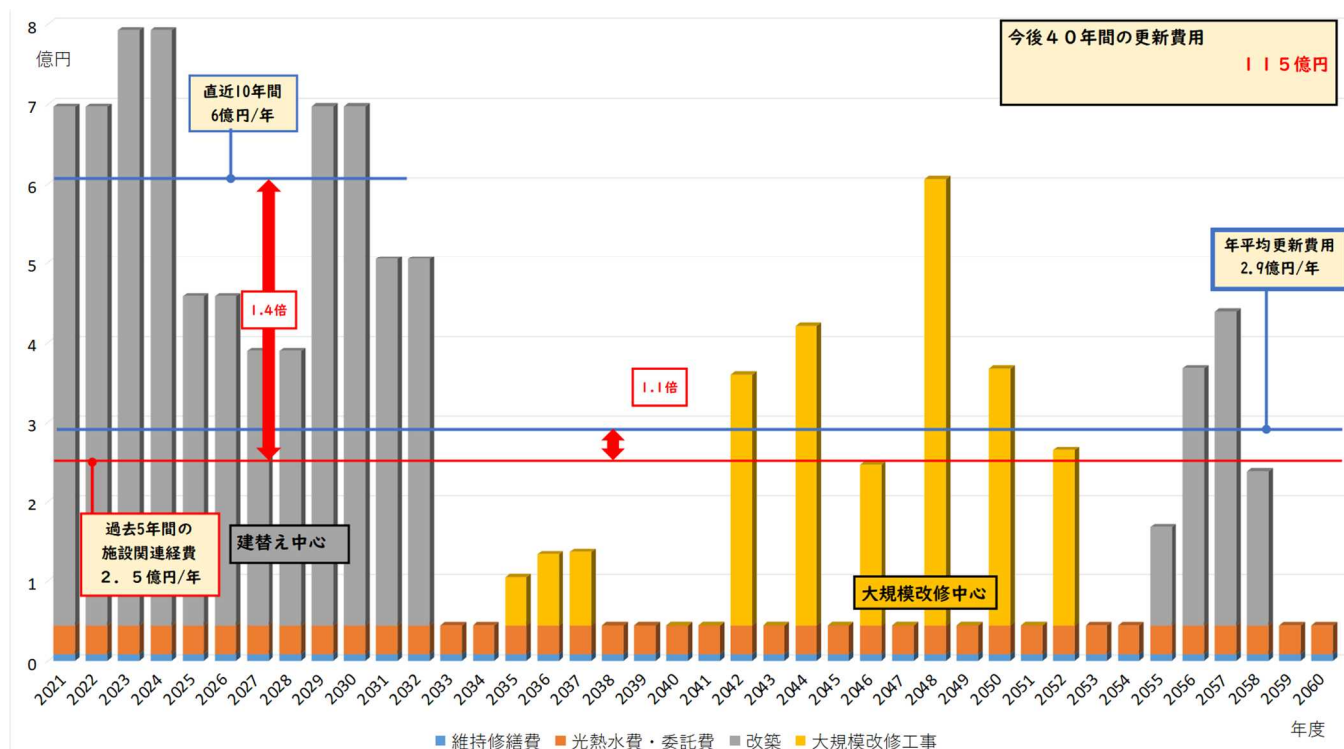
図表 計画対象の築年別整備状況



6) 今後の維持・コスト（従来型）

40年で建替える従来の修繕・改修を今後も続けた場合、今後40年間のコストは115億円（2.9億円）の費用がかかります。これは、直近5年間の施設関連経費2.5億円/年の約1.1倍です。2020年度から2029年度の10年間では、建替えが集中するため直近5年間と比べ、約1.4倍のコストがかかります。

図表 従来の修繕・更新コスト



試算条件

工種	周期	単価（円/㎡）			
		校舎（RC造）	校舎（鉄骨造）	屋内運動場（RC造）	屋内運動場（鉄骨造）
改築	40年	330,000	310,000	330,000	310,000
大規模改造	20年	83,000	76,000	73,000	68,000

※改築単価は建築コスト情報、その他の単価は学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書による

※改築時期が重なる場合は、年に2校ずつ建替・大規模改造を行う計画で試算

②学校施設の老朽化状況の実態

1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

〈調査・評価方法〉

劣化状況調査票を用いて構造躯体以外の劣化状況を把握し、屋根・屋上、外壁は目視状況により、内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数を基本に A, B, C, D の 4 段階で評価します。

学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書より抜粋

評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

経過年数による評価

【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

健全度

総和(部位の評価点×部位のコスト配分) ÷ 60

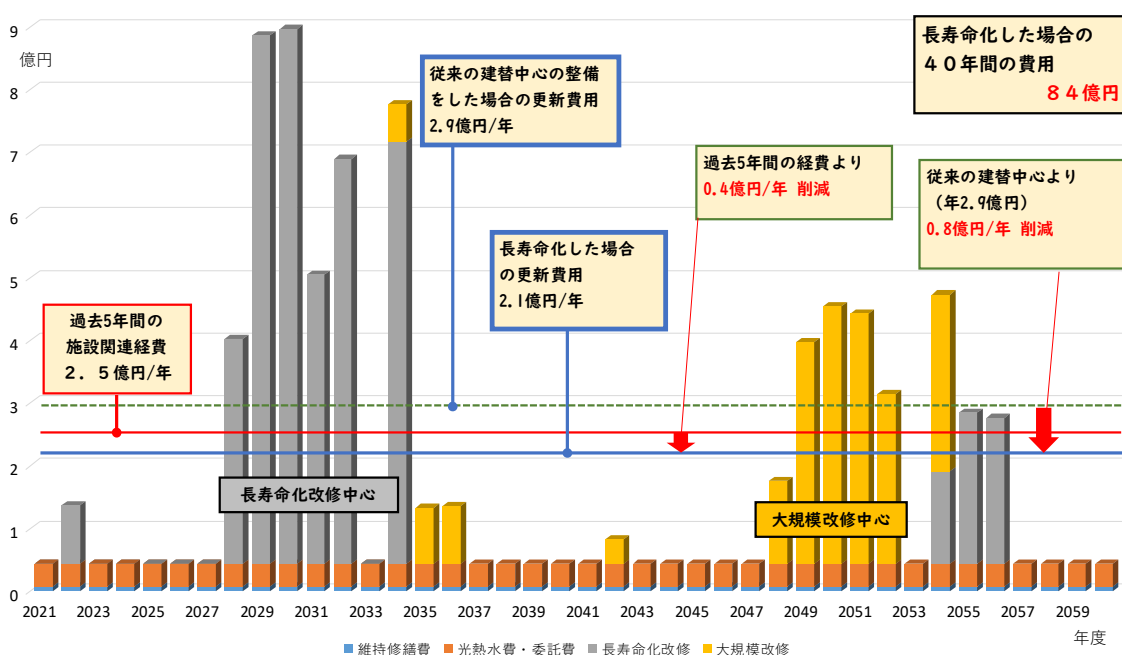
構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

											A : 概ね良好			C : 広範囲に劣化								
											B : 部分的に劣化			D : 早急に対応する必要がある								
											基準			2020								
											構造躯体の健全性						劣化状況評価					
施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
			学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/㎡)	試算上の区分						
おがのこども園	園舎 1	1-1.1-2	こども園	園舎	RC	2	1,278	1981	S56	39	旧	済	済	H23	17.6	長寿命	B	B	B	B	B	75
小鹿野小学校	校舎 1	1.11	小学校	校舎	RC	3	2,666	1971	S46	49	旧	済	-	H19	17.6	長寿命	A	B	C	B	73	
小鹿野小学校	校舎 2	14-1.14-2	小学校	校舎	RC	2	1,592	1975	S50	45	旧	済	-	H19	20.6	長寿命	A	B	C	B	73	
小鹿野小学校	屋内運動場	22	小学校	体育館	RC	2	1,216	2015	H27	5	新	-	-				A	A	A	A	100	
長若小学校	校舎	10.19.16	小学校	校舎	RC	2	1,830	1973	S48	47	旧	済	済	H19	21	長寿命	A	B	B	C	B	73
長若小学校	屋内運動場	12	小学校	体育館	RC	1	499	1976	S51	44	旧	済	済	H19	21	長寿命	A	C	B	C	B	62
三田川小学校	校舎 1	1	小学校	校舎	RC	2	1,982	1974	S49	46	旧	済	-	H19	20.6	長寿命	A	B	C	B	73	
三田川小学校	校舎 2	6	小学校	校舎	RC	2	473	1982	S57	38	新	-	-				A	C	B	B	67	
三田川小学校	屋内運動場	2	小学校	体育館	RC	1	559	1977	S52	43	旧	済	済	H19	20.6	長寿命	A	C	B	C	C	58
両神小学校	校舎 1	1-1.1-2.1-3	小学校	校舎	RC	3	2,707	1972	S47	48	旧	済	済	H19	20.6	長寿命	C	C	B	C	B	57
両神小学校	屋内運動場	5-1.5-2	小学校	体育館	S	1	558	1973	S48	47	旧	済	済	H19	21	長寿命	B	B	B	C	C	66
小鹿野中学校	校舎 1	14.17.22	中学校	校舎	RC	3	3,398	1978	S53	42	旧	済	-	H19	20.6	長寿命	A	B	B	B	77	
小鹿野中学校	校舎 2	21	中学校	校舎	S	2	792	2014	H26	6	新	-	-				A	A	A	A	100	
小鹿野中学校	屋内運動場	13	中学校	体育館	R	2	1,289	1969	S44	51	旧	済	済	H19	17.7	長寿命	A	D	B	B	B	59
小鹿野中学校	武道場	23	中学校	武道場	S	1	401	2016	H28	4	新	-	-				A	A	A	A	A	100
小鹿野中学校	屋内運動場	24	中学校	体育館	S	2	1,106	1980	S55	40	旧	済	済	H20	20.6	長寿命	B	B	B	B	B	75
学校給食センター	給食センター	1-1	給食センター	給食センター	S	1	849	2016	H28	4	新	-	-				A	A	A	A	A	100

2) 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

建替え中心から改修による長寿命化に切り替えていくためには、計画的に機能向上と機能回復に向けた修繕・改修を建物全体でまとめて実施する必要があります。長寿命化により建物寿命を 80 年とした場合、今後 40 年間の維持・更新コストは総額 84 億円（2.1 億円/年）となり、従来の建替中心の場合の 115 億円（2.9 億円/年）より総額 31 億円、約 27%の削減することができます。

図表 長寿命化による維持・更新コスト



試算条件

工種	周期	単価 (円/㎡)			
		校舎 (RC造)	校舎 (鉄骨造)	屋内運動場 (RC造)	屋内運動場 (鉄骨造)
改築	80年~90年	330,000	310,000	330,000	310,000
長寿命化改修	40年	198,000	186,000	198,000	186,000
大規模改修	20年	83,000	76,000	73,000	68,000

※改築単価は建築コスト情報、その他の単価は学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書による

※平成 20 年以降に各校の大規模改修工事を行っており、そこから起算して 20 年で長寿命化改修、その後 20 年で大規模改修工事、その後 20 年後に改築をする計画で試算

※長寿命化改修、大規模改修時期が一年で 3 棟以上になる場合は、その付近の年で平準化し試算

(4) 学校施設整備の基本的な方針等

①学校施設の規模・配置計画等の方針

1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針

〈小鹿野町公共施設等総合管理計画の基本方針〉

(i) 施設保有量の適正化

- ・原則として新規整備は必要最低限度とします。
- ・今後の財政状況、人口減少社会を見据えて、規模縮小、廃止、統合等により施設保有量の適正化を図ります。

(ii) 既存施設の有効活用

- ・予防保全型の維持管理などによる長寿命化を推進し、更新等費用の抑制・平準化を図ります。
- ・低、未利用施設については、各施設別に解体費用を試算した上で、地域での利活用や公共的団体又は民間事業者での活用等、多様な活用方法を広く検討していきます。

(iii) 効率的・効果的な運営

- ・民間活力を導入するなど、維持管理・運営に係るコストの縮減やサービスの質の向上のための手法などを検討し、効率的・効果的な運営を図ります。

〈小鹿野町学校施設長寿命化計画の方針〉

(i) 施設保有量の適正化

- ・小中学校の適正規模・適正配置を図ります。

(ii) 既存施設の有効活用

- ・可能な建物は建築後 80 年以上使用することを目指し、長寿命化を検討します。
- ・適切な維持管理、長寿命化による財政負担の平準化及びライフサイクルコストの削減をします。

(iii) 効率的・効果的な運営

- ・学校の多目的利用・複合化により市民に身近で便利な地域のコミュニティ、スポーツ、防災拠点化を図ります。

〈小鹿野町学校施設の個別施設計画の分野別方針〉

(i) 小中学校

小中学校の規模の適正化と適正配置を推進します。大規模改修、建替え時等には、小規模校や将来児童生徒数が減少する学校は、周辺の公民館、

地域体育館、プール、グラウンド等の機能を集約・複合化し、地域のコミュニティと防災の拠点化を図ります。

(ii) 認定こども園

出生数の減少と保育需要の多様化に対応するため、令和2年4月1日より、小鹿野幼稚園と小鹿野保育所、両神保育所を統合し、幼保連携型認定こども園へと移行しました。

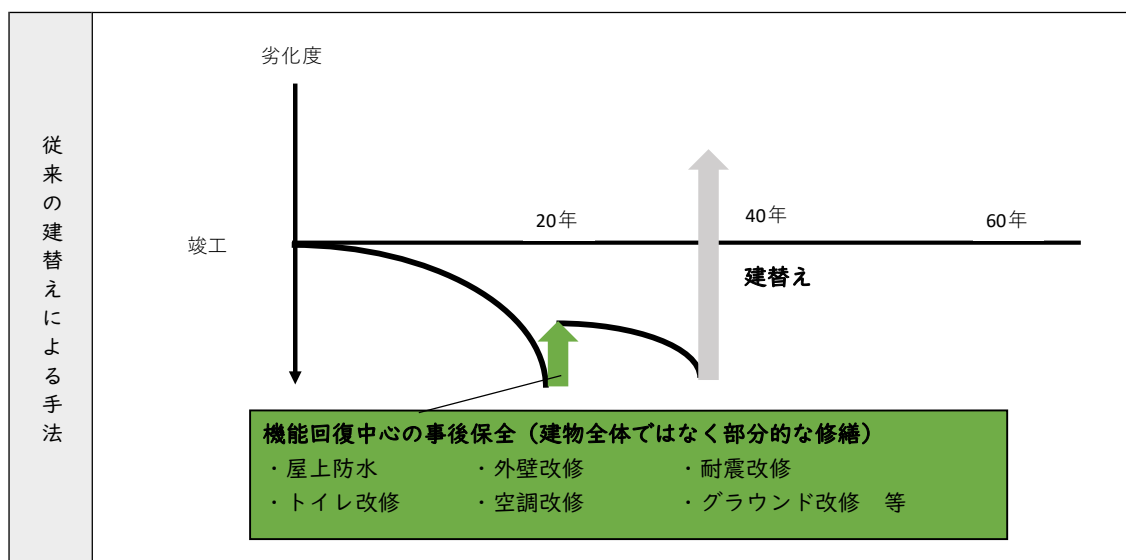
2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

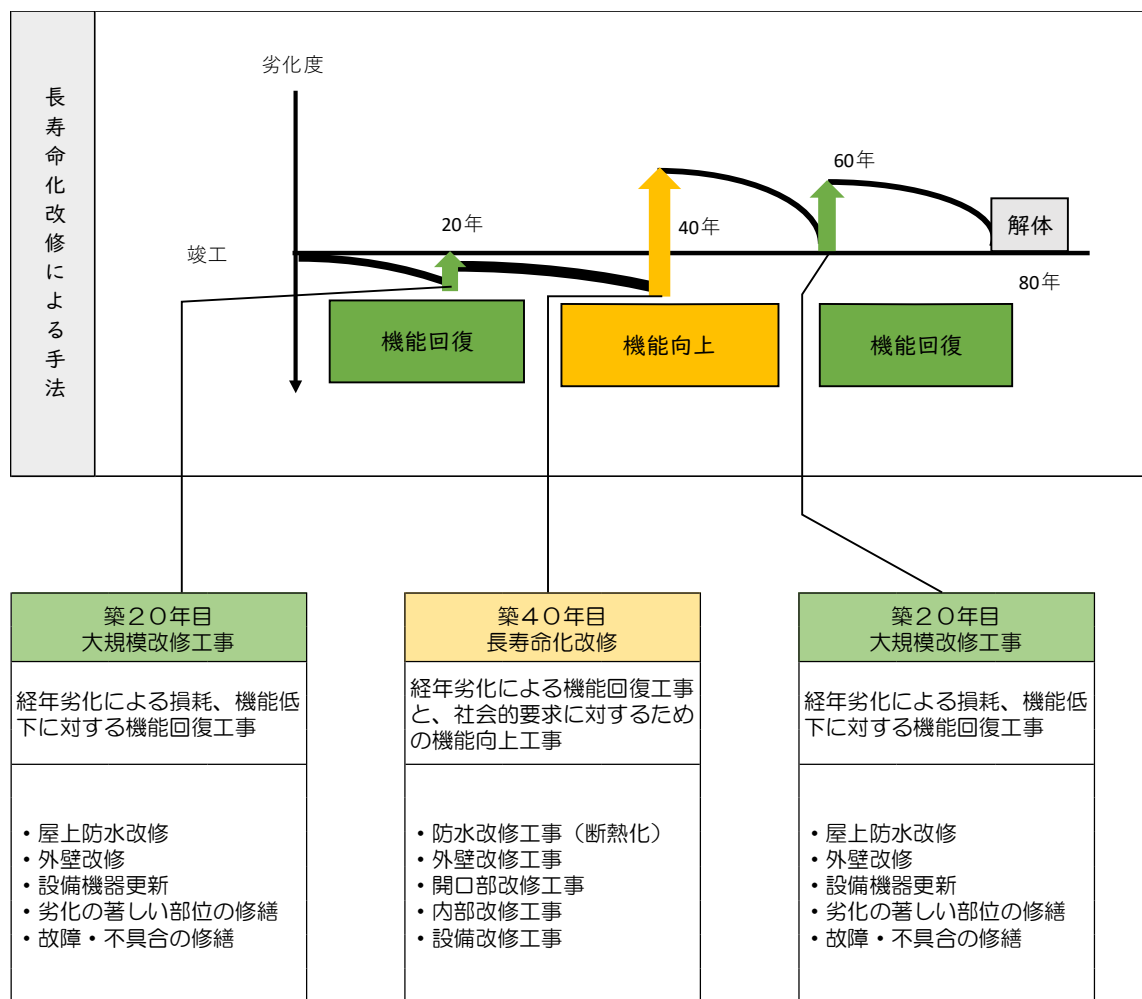
小鹿野町には、公立幼保連携型こども園1園、小学校4校、中学校1校、給食センター1か所が配置されています。小学校においては、児童数の減少により、一層の小規模校化が予想されるため将来的には統合を検討する必要があります。

②改修等の基本的な方針

1) 長寿命化の方針

今後は、建替えから長寿命化改修による建物の長寿命化に切り替え、改修部位を併用した整備を行います。下記に長寿命化改修を実施した場合の修繕・回収時期を示します。





2) 目標耐用年数、改修周期の設定

小鹿野町の学校施設においては、前述した長寿命化の方針に従い、長寿命化改修の実施が適当と判断される施設については、建築後 80 年まで使用することを目標に、大規模改造を建築後 20 年と 60 年、長寿命化改修を建築後 40 年で実施していくことを基本とします。

(5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

①改修等の整備水準

長寿命化において配慮すべき性能に対して、各部の整備レベルを設定し、対費用対効果を考慮して、最適な仕様を設定します。また、将来の社会的要求水準の高まりへの対応、建物レベルの統一を図ります。

学校施設の整備レベル (小鹿野町学校施設の平均的場合)

凡例	
	: 省エネ機能向上
	: 学習環境の向上
	: バリアフリー等機能向上 (快適性)
	: 一般的な仕様 (長寿命化・耐久性)
	: 防災・防犯機能向上 (安全性)

改修 現況の水準

		5 (高い)	4 (やや高い)	3 (標準)	2 (やや低い)	1 (低い)
外部仕上げ	屋根・屋上	外断熱保護防水	外断熱露出防水 (シートor塗膜)	露出防水 (シートor塗膜) 内断熱 (スラブ下)		露出防水 断熱無し
	外壁	外断熱パネル 仕上塗材	防水型複層塗材 高気密高断熱サッシ (Low-eペアガラス)	複層塗材 内断熱 (室内側)	薄付け塗材 断熱無し	打放し (撥水塗装) 断熱無し
	外壁開口部	高気密高断熱サッシ (Low-eペアガラス)		アルミサッシ 複層ガラス等	アルミサッシ 強化ガラス	スチールサッシ 一般ガラス
内部	教室	LED照明 (センサー付き)	空調 (冷房) 内装木質化 ICT機器整備等	LED照明 ボード天井 床: フローリング 壁: 塗装		蛍光灯照明 直天井 換気扇、扇風機等 床: フローリング 壁: 塗装
	トイレ	LED照明 (センサー付)	暖房便座	LED照明 ドライ式 洋便器 (節水型) 多目的トイレ設置		蛍光灯照明 ウェット式 和便器 多目的トイレ無し
	体育館	空調		非構造部材 耐震化 LED照明		耐震対策無し 水銀灯照明
	その他	全棟全フロア バリアフリー		防犯カメラ設置 車いす対策 (ELV設置)	スロープ	車いす対策無し
設備等	受変電・自家発電	自然エネルギー利用		自家発電設置		一般的な仕様
	給排水	雨水・中水利用		災害時の受水槽		一般的な仕様

②維持管理の項目・手法等

躯体以外の劣化状況の把握は、必要に応じて建築基準法第 12 条点検の実施と合わせて、建築の専門家による調査・点検を実施することとします。

1) 把握項目

躯体以外の劣化状況の把握項目は、文部科学省「学校施設の長寿命化計画に係る解説書」平成 29 年 3 月の 5 部位（屋根・屋上、外壁、内部仕上、電気設備、機械設備）とします。

2) 評価方法

- ・屋根、屋上、外壁は目視状況により評価します。
- ・内部仕上、電気、機械設備等は部位の全面改修年から経過年数を基本に、目視状況を加味して評価します。

(参考) 劣化状況調査票

通し番号	2				
学校名	小庭野小学校	学校番号	2081	調査日	
建物名	校舎1	記入者			
棟番号	1.11	建築年度	昭和46年度(1971年度)		
構造種別	RC	延床面積	2,666 m ²	階数	地上 3 階 地下 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☐ 勾配屋根(長尺金属板、折板) ☐ 勾配屋根(スレート、瓦類) ☐ その他の屋根 ()			☐ 降雨時に雨漏りがある ☐ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根資材に錆・損傷がある ☐ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフドレンを目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある			
2 外壁	☐ 塗仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル(ALC等) ☐ その他の外壁 () ☐ アルミ製サッシ ☐ 鋼製サッシ ☐ 断熱サッシ、省エネガラス			☐ 鉄筋が見えているところがある ☐ 外壁から漏水がある ☐ 塗装の剥がれ ☐ タイルや石が割れている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐朽 ☐ 既存点検等で指摘がある			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	☐ 老朽改修			
	☐ エコ改修			
	☐ トイレ改修			
	☐ 法令適合			
	☐ 校内LAN			
	☐ 空調設置			
	☐ 障害児等対策			
	☐ 防犯対策			
	☐ 構造体の耐震対策			
4 電気設備	☐ 分電盤改修			
	☐ 配線等の敷設工事			
	☐ 昇降設備保守点検			
	☐ その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	☐ 給水配管改修			
	☐ 排水配管改修			
	☐ 消防設備の点検			
	☐ その他、機械設備改修工事			

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項があれば、該当部位と指摘内容を記載)

	健全度
	0 / 100点

(6) 長寿命化の実施計画

①改修等の優先順位付けと実施計画

小鹿野町の学校施設は 2000 年代後半に、大規模改修工事を実施しました。そこで、長寿命化改修工事は直近の大規模改修工事から 20 年経過するタイミングで計画します。それにより、2028 年度から 2032 年度に長寿命化改修工事が集中しますが、予算の平準化のため、年に 2 校ずつ築年数の古い学校順に整備を計画します。

予算については、下表より長寿命化改修を実施した場合、長寿命化改修を行う年度の施設関連経費の平均は、年間約 6 億円です。2015 年から 2019 年までに直近 5 か年での施設関連経費は、年間 2.5 億円と比較すると 1.4 倍の経費がかかりますが、40 年間で見ると 31 億円を削減することができます。財源については、国の補助金や過疎対策事業債等の起債など、適切かつ効果的に活用し、財政負担を軽減させていきます。

長寿命化改修計画

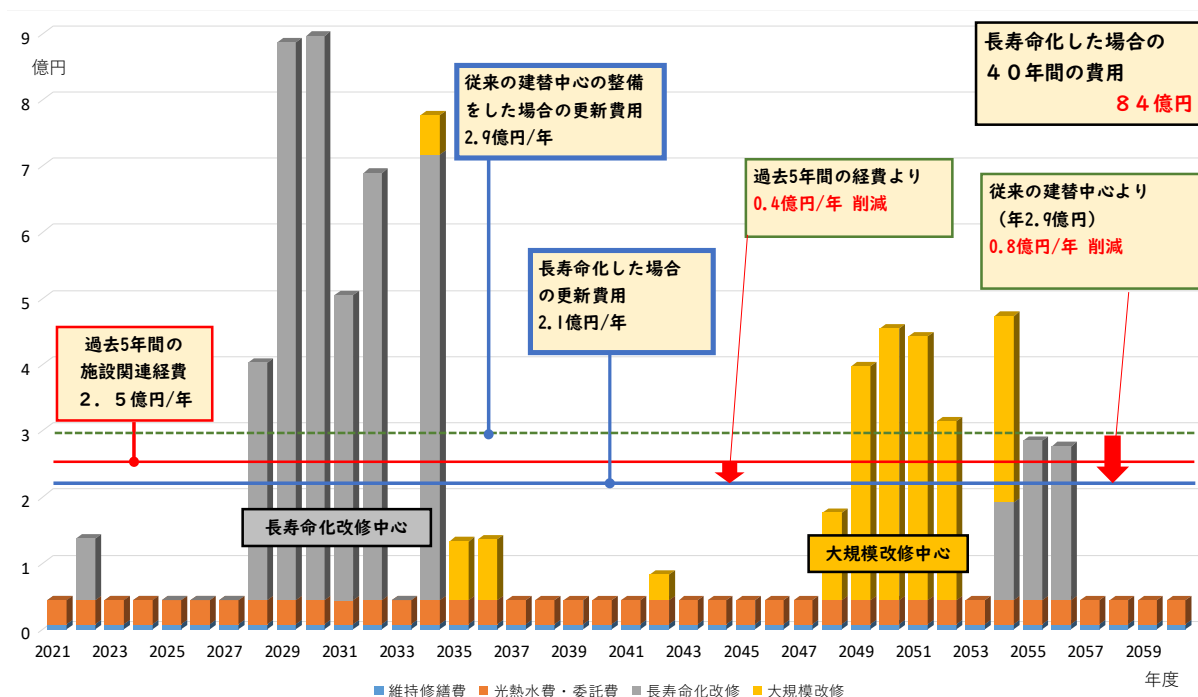
年度	工事名	事業費（円）	維持修繕費・ 光熱費	合計
2022年	三田川小学校増築棟校舎	93,654,000	43,974,000	137,628,000
2028年	両神小学校体育館	103,788,000	43,974,000	402,984,000
	小鹿野中学校第一体育館	255,222,000		
2029年	小鹿野小学校校舎	843,084,000	43,974,000	887,058,000
2030年	三田川小学校体育館	110,682,000	43,974,000	896,358,000
	両神小学校校舎	535,986,000		
	小鹿野中学校第二体育館	205,716,000		
2031年	長若小学校校舎	362,340,000	43,974,000	505,116,000
	長若小学校体育館	98,802,000		
2032年	おがのこども園舎	253,044,000	43,974,000	689,454,000
	三田川小学校校舎	392,436,000		
2034年	小鹿野中学校校舎	672,804,000	43,974,000	716,778,000
合計				4,235,376,000
年平均施設関連経費				605,053,714

②長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

長寿命化改修手法による整備の計画では、40年間で84億円のコストがかかりますが、年間では、2.1億円と直近5か年の施設関連経費2.5億円と下回ります。2028年度から2034年度までは、長寿命化改修が中心となり、2048年度から2054年度までは大規模改修工事が中心の整備となります。

今後の学校施設の維持・更新コストは、長寿命化をしても年間約2.1億円の施設関連経費が見込まれています。児童生徒数が減少する中で施設の維持・更新費用はこれからも多額の費用がかけていかななくてはならず、①施設保有のあり方、②維持・更新コストの削減及び財源確保は大きな課題となります。個々の学校施設の長寿命化だけでは限界があることから、学校施設の配置や規模、運営面・活用面等に及ぶ多面的な見直しが必要であり、適正化に向けた総合的な取り組みの方針を明確にする必要があります。

図表 長寿命化による維持・更新コスト



(7) 長寿命化計画の継続的運用方針

①情報基盤の整備と活用

学校施設の基本情報、光熱水費をはじめとする運営経費、工事履歴や劣化状況を一元的に管理し、効率的かつ効果的な維持管理に向けた取り組みを推進することを目指します。

②推進体制等の整備

学校施設の所管課である教育委員会学校教育課を中心に、本計画を含む学校施設のマネジメントを行っていきいますが、必要に応じて公共施設検討委員会等を活用して、全庁的な体制で対応を図っていきます。

また、施設管理の質を向上するため、年に1回の学校職員、学校教育課職員による非構造部材耐震点検、3年に1回は建築基準法第12条点検及び施設劣化状況調査も実施し、不具合箇所の早期把握と対応を図っていきます。

③フォローアップ

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位を設定するものであり、年次及び個別の事業費を精査していきます。また、事業の進捗状況、劣化調査などの結果を反映して本計画は見直すものとします。